

潮騒

7月には西日本豪雨や逆走した台風12号、9月には北海道胆振東部地震など、経験したことのない頻度で、各地で大規模な自然災害が発生しています。

雄大な表浜のほうべも、場所によっては崩落が見られるなど、表浜地域では多くの課題を抱えています。

これからも地域一丸となって、表浜の自然環境を守っていきましょう。

CONTENTS

◆表浜ほうべの森へようこそ!	P1
◆特集「海とわたし」	P2~4
◆連載「表浜の地形とくらし」第1回～豊川用水と渥美半島の台地地形	P5
◆田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の概要	P6
◆表浜風土記「表浜自然ふれあいフェスティバルに参加して」 田原市立東部中学校	P7
◆平成30年度事業計画	P7



【第20号の表紙】

「東中ソーラン」は、田原市立東部中学校で平成19年から受け継がれてきた伝統行事です。平成29年度に行われた「第20回表浜自然ふれあいフェスティバル」では、新しい企画として初めて披露していただき、迫力ある演舞で会場はおおいに盛り上がりました。

これからの生徒さんの成長が楽しみです!(併せて7ページの「表浜風土記」もご覧ください)

表浜ほうべの森へようこそ!

(田原市谷ノ口公園)

神戸町・谷ノ口地区に位置する、田原市谷ノ口公園。この公園は「表浜ほうべの森」の愛称で地元の方に親しまれ、平成29年4月1日にオープンし、季節を問わず多くの利用者で賑わっています。



谷ノ口公園管理委員会のスタッフのみなさん

谷ノ口地区に「表浜ほうべの森」ができたきっかけは、15年以上前にさかのぼり、田原町時代の平成13年12月に谷ノ口地区が、田原町東部太平洋岸総合整備促進協議会から海浜拠点整備のモデル地区に選ばれたことでした。そして、その拠点整備計画による事業の一つとして「表浜ほうべの森」が誕生しました。

公園は「谷ノ口公園管理委員会」が指定管理を受けて管理及び運営を行っており、2年目になります。今年度から新たに利用料金制を導入し、利用者が減ってしまうのではないかと心配していましたが、それは杞憂でした。今年度は7月から8月にかけて台風が非常に多くキャンセルもありましたが、それを差し引いても公園の利用者数は、9月末時点で昨年度より100名程増加しており、約6,000名にものぼりました。花火やペットの持ち込み、車の乗り入れの禁止など様々なルールを設けていますが、利用される方にご理解いただき盛況でやらせていただいています。改めてありがたいなあと思うところです。

また、5月から毎週日曜日の午前中に、野菜や果物等がたくさん並ぶ「青空市」を開催しています。公園に来たことがないお客さんにまず公園を見て知ってもらい、そして生産する方とお客さんが対話を楽しめるような、地域のそれぞれの思いを繋げる場を目指しています。出店していただける方も募集していますので、お問い合わせください。

「表浜ほうべの森」の良さは、ありのままの自然の姿がゆったりと時間を忘れさせてくれるところです。夜には夜空に輝く星を、明け方には水平線から昇る真っ赤な朝日を眺め、まるで非日常の大自然の中にいるような雰囲気を楽しんでいただきたいです。利用者は市外の方が多く、市内の方の利用が減っているので、新しいことにも積極的にチャレンジし飽きられない公園を目指して頑張っていきます。みなさんのご来場をお待ちしています。



色とりどりの看板が目印!駐車場も整備!



キャンパー、ピザづくりに奮闘



休日は特にテントが多く立ち並びます

◆施設利用料金

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| ● 野営場 …………… 2,000円 (1張/1日) | ● 会議室 …………… 300円 (1時間) |
| ● 多目的ホール …… 1,000円 (1時間) | ● 炉 (炊事棟内) …… 700円 (1炉/1日) |
| ● かまど …………… 800円 (1基/1日) | ● 石窯 …………… 1,000円 (1基/2時間) |
| ● テント …………… 1,500円 (1張/1日) | ● コインシャワー …… 100円 (1回) |

◆表浜ほうべの森の利用案内

場 所 田原市南神戸町南中島1
営業時間 午前9時～午後5時
休 業 日 月曜日 (祝日の場合は翌平日)、年末年始 (12月28日～1月4日)
予 約 先 谷ノ口公園管理委員会 (表浜ほうべの森管理棟)
TEL:0531-24-8901 / FAX:0531-24-8902

海とわたし

サーフィンと海【田原東部校区】

波は広い太平洋の真ん中で海を渡る風が小さなさざ波を起こし、それがいずれウネリとなり何千キロも太平洋を渡り日本までやってきます。海岸付近でウネリは崩れ波になります。波は時として海岸線を浸食したり人々をのみ込んだり災いを招くこともあります。でも、小さなボードを操り自然と一体となるサーフィンなどの楽しみも与えてくれます。今回、豊かな海の恵みを受けて楽しむサーフィンと海についてお話ししたいと思います。

1960年代初め、神奈川県湘南で外国人がサーフィンをしているのを見た若者がまねて始めたのが日本のサーフィンの始まりと言われています。当時、この地方の表浜の子どもたちは板子乗りと称して、板きれで波に乗って遊んでいたそうです。1970年代に入り、日本中でアメリカ西海岸ブームがおこり、同時にサーフィンも大ブームになり、この地方の表浜海岸一帯どこでもサーフィンを見ることができるようになりました。



ブームの影で、サーファーと住民とのトラブルも増加。旧赤羽根町ではサーフィン禁止条例まで検討するほどでした。しかしサーファーとの共存を選択した当時の赤羽根町は、トイレ、駐車場、道路の整備など行い、現在では日本でも一二を争うサーフポイントに成長しました。一方で、サーファーもマナーの向上やビーチクリーンなどを取り組み始めました。そして今年にはサーフィンのオリンピックと言われるISAワールドサーフィンゲームスが開催され、全世界の注目を集めるまでになりました。

最近ではウエーブプールと言って人工の波をおこしサーフィンができる施設もあります。しかし海ではみんなが楽しめる小さな優しい波から人を寄せ付けけないほど巨大でパワフルで、選ばれた特別な人しか乗れない波など、一つとして同じ波はありません。サーフィン環境だけで見ても海は素晴らしい存在です。私がサーフィンを始めた40年くらい前の海ではゴミはさほど無かったように思います。しかし、最近ほどの海岸に行ってもプラスチック系のゴミがたくさん見られます。このプラスチックはやがて経年変化でマイクロプラスチックとなり、魚の体内に蓄積されそれを食べた人に健康被害を及ぼすとも言われています。これは漁業にも大きな影響を与えることになります。

海はみんなの海です。遥か遠い太平洋の真ん中から来た波にロマンを感じながらこれからもみんなで力を合わせ守っていききたいと思います。

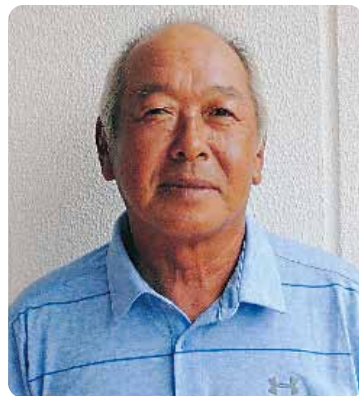
寄稿：赤尾昌昭さん(豊島町在住)



地引網に生きる【六連校区】

六連の「地引網」について漁師の方にお話を聞きました!

聞き手: 安田一正さん(六連町在住)



佐藤節男さん(六連町在住)

質問1 いつから地引網をやっていますか?

六連町はもともと海の民で、私は25歳からやっています。親父も漁師をやっており、親父の時代は、中学校を卒業するとすぐ漁師になっていました。

質問2 現在の六連町の地引網について、教えてください。

昔の六連町は久美原、西浜田、東浜田、百々の4つの網元がありました。現在は、浜田、百々の2つの網元になり、観光での地引網になっています。年間5~6の団体が利用しています。六連小学校は、毎年、学校教育の一環で利用し、春日井市の中学校からも来ています。また、企業のジェイテクトさんや、新城市役所の有志の方々も、利用されています。

質問3 どんな種類の魚が取れますか?どんな面白さがありますか?

一番多い魚は、コノシロでアジ、サバ、カマス、マダカ(スズキ)などが上がります。まれに、サメや砂浜のイルカである、スナメリが入っていることもあります。面白さは、引き上げてみないと、何が入っているかわからない点と、取れた魚を見て、子供たちが喜ぶ顔を見ることができることです。

質問4 子供の頃と比べ、表浜の環境は変わりましたか?

一番気になるのは、砂浜の面積が狭くなったことです。子供のころは海まで出るために熱い砂浜を、裸足で飛び跳ねながら走りました。その距離は100m近くあったと記憶しています。今、満潮時は3mほどの距離になりました。原因が何にあるのかよくわかりません。地球の温暖化、離岸堤設置、ダムの建設等が噂されています。砂浜が無くなると、地引網はできません!網を引き上げることができなくなるからです。



荒波の中いざ出航



みんなで力を合わせて共同作業



最後はトラクターの出番



大漁だ!



表浜海岸は、特徴ある長く平坦な砂浜海岸線です。5月初旬ともなれば、いたるところで、ピュツ、ピュツと投げ釣りの竿の音が響き渡ります。東の空がほんのり明るくなりかけた表浜海岸に響く音、5月初旬の日曜日ともなれば、長さ4メートル以上もの竿を太平洋に向かって、地平線までも届けと言わんばかりに投げ入れています。

日が昇ってみると、海岸線に沿って、長く伸びた釣り人達の列、立てられた長尺竿、そのうちにキリキリと巻き始めたリールの音、やがて波間からきらりと光る銀鱗、一匹、二匹と連なっている表浜海岸の白ギスの開幕があります。

私たちが暮らす表浜海岸は、東から、六連の久美原海岸、浜田海岸、百々海岸、神戸の谷ノ口海岸、そして大草海岸といった海岸まで車で行くことができる海岸があります。砂浜遠浅で、投げ釣りに適しており、シーズンともなれば、遠くは名古屋・尾張方面からの釣り人で賑やかになります。

シロギス、イシモチといった、小型の魚類を求め多くの方々に楽しまれています。特にシロギスは投げ釣りの大者と言われる程、太公望たちにはその手ごたえに魅了されるそうです。時には、竿の入る場所がなくなってしまうほどの賑いぶりには、地元民も驚くほどです。また、梅雨が明け始めるところ、短期間ではありますが、イシモチも釣れます。イシモチの由来は、字のごとく体の頭に、石のような固いところがあるのが特徴です。

季節は深まり、初秋には、落ちギスが楽しめます。初夏には、白色のキスが、秋を迎え産卵の時になると、体長も、25センチメートルを超えるようになり、太さもぐっと太くなり体も赤くなります。また、引きも強力になり、これもまた太公望をうならせます。

初冬になれば、ボラが釣れ出します。体長60～70センチメートルといった大物も釣ることができ、地元の愛好家にはたまらないシーズンです。最近では、疑似餌を使っのキャストイングを楽しむ若者も増えています。

寄稿：寺田勝利さん(大草町在住)



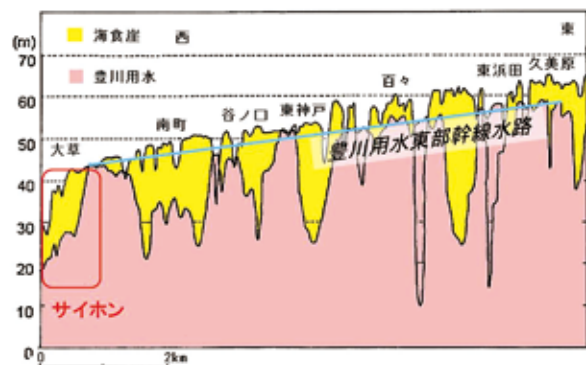
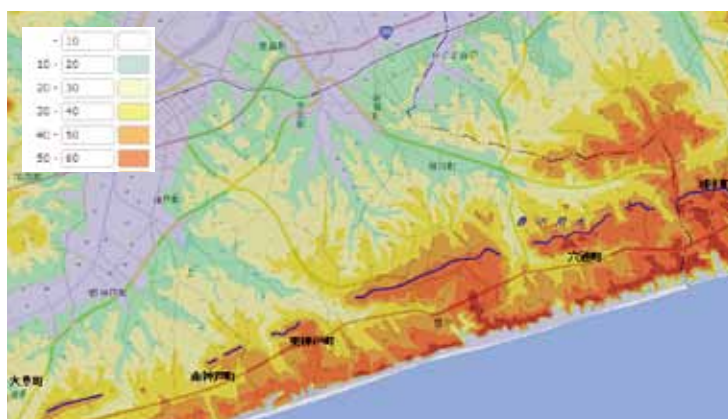
表浜の地形とくらし

第1回 豊川用水と渥美半島の台地地形／藤城信幸(田原・赤羽根史現代編編集委員)

表浜で生まれ育った私にとって、「あかじゃり」と呼ばれた小石混じりの赤土の台地と、どこまでも続く「ほうべ」の切り立った崖と砂浜が原風景であり、格好の遊び場でもありました。昭和30年代まで農家の多くが牛を飼い農作業に使っていました。牛車を引く牛が2列に生えた草が続く農道を行き交う時代でした。30年代後半に耕耘機が急速に普及し、牛車も牛も姿を消してしまいました。昭和38年からは表浜一帯に広がる丘陵地のは場整備事業が始まり、赤土の台地に農地が開かれていき、豊川用水通水と平行して、農地の基盤整備が進められていきました。

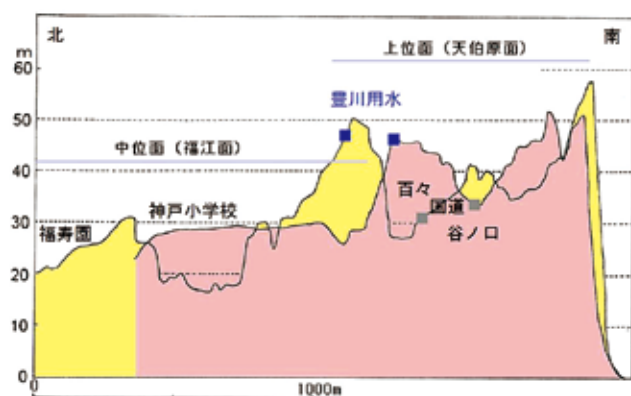
今年は豊川用水通水50周年にあたり、さまざまな記念行事が行われています。表浜集落は生活用水さえもタタキの雨水に頼るほど水不足に苦しむ地域でした。半世紀前に豊川用水の水がスプリンクラーから一斉にほとばしり、渥美半島の乾いた畑の隅々まで潤しました。豊川用水通水を契機に渥美郡の農業は飛躍的に発展し、田原市の農業は現在でも農業生産額日本一を走り続けています。豊川用水が渥美半島の地形と深く結びついていることをご存じですか。

右の等高線図を見ると、台地が海岸線に平行して東西に続いています。六連では3列、東神戸～南神戸では2列、大草に入ると海食崖の1列だけになります。これらの台地は「天伯原面」と呼ばれ、35万年前の海進期に海面が上昇して浅い海につくられた地形面です。その後、渥美半島の付け根を中心に地盤が隆起し、天伯原面は東から西へと傾くようになりました(渥美曲隆運動)。天伯原面の傾きは、右の地形断面図を見ると理解できます。豊川用水はこの東高西低の地形の傾きを生かしながら半島先端まで自然に水が流れるようになっています。水路の傾きは10mでわずか7mm下がるように設計されています。



南町から大草方面に国道42号を走ると、道の両側が台地になっています。豊川用水は北側の台地の上を西に流れています。北側の台地(天伯原面)は大草の東で突然途切れるので、高松の大正池まで長さ2.7kmのサイホンを使って結ばれることになります。

下の図は、表浜の地形を南北に切った断面図です。南には天伯原面の海食崖がそそり立ち、国道が谷間を走り、豊川用水は北側の天伯原面の上を通っています。豊川用水の北には標高30～20mの平坦な台地が広がっています。この平坦面は12.5万年前の海進期に上昇した海面により上位の天伯原面が侵食され、再び堆積した砂礫でつくられた「福江面」です。六連町富山(標高55mの天伯原面)から北を臨むと、トヨタ自動車工場や豊橋造船所、三河港大橋などが一望できます。三河湾に向かってなだらかに下っている台地が福江面です。富山地区では豊川用水が標高50m付近を通り、豊川用水の支線が南高北低の台地の傾きを利用して、渥美半島の隅々まで送水されているのです。渥美曲隆運動があったからこそ、渥美半島の全域に自然流下によって豊川の水を送ることが可能になったのです。



「みんなで考え・行動する地域づくり」 田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の概要

■田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会について

本協議会は平成8年の発足以来22年目になり、六連・神戸・大草そして田原東部の4校区が主体となり、田原市の協力をいただきながら、自立した地域活動を歩み進めてきました。

協議会の活動の一つに「表浜自然ふれあいフェスティバル」があり、表浜海岸などの大自然の魅力を感じつつ清掃活動を行い、ほうべの崩落や海岸侵食の現状を広く知ってもらうことを目的とし毎年開催しています。地域の方やボランティア、サーフィン協会、田原市立東部中学校など、多くの方が携わっています。昨年度は初めて、東部中学校の有志の生徒さんが「東中ソーラン」の踊りを披露し、「見ごたえがあった」などと参加した方に大変喜んでいただきました。

このようなイベント等を通して、同じ海岸環境を持つ地域との連携をとりながら、行政と一体となって海岸侵食対策、地震対策等に取り組むとともに、太平洋岸地域の快適で住みよい環境整備が実現できるよう活動していきたいと思っております。

今後の協議会の取り組み

- ・太平洋岸の魅力を発信するイベントの開催
- ・海浜・崖森・農地エリアのエリア別の整備促進
- ・渥美半島全体の連絡調整
- ・関係機関への要望活動等の展開

■協議会組織（平成30年10月現在・順不同）

役員	会長	岡田惣二(田原東部コミュニティ協議会長)
	副会長	安田一正(六連コミュニティ協議会長)、浅野正三(神戸コミュニティ協議会長)、寺田幸弘(大草コミュニティ協議会長)
委員	市議会議員	仲谷政弘、赤尾昌昭、河邊正男、大竹正章、彦坂久伸
	漁業関係者	富田寛(愛知外海漁業協同組合理事)、太田行彦(愛知外海漁業協同組合網元代表)
	市農業委員	大羽秀敏、鈴木和徳、三浦和寿、木下和洋
	市役所	鈴木正直(副市長)、大羽耕一(産業振興部長)、太田俊成(建設部長)、岡田利幸(都市整備部長)、宮川裕之(教育部長)
顧問		山下政良(田原市長)、山本浩史(愛知県議会議員)、高瀬与志彦(愛知みなみ農業協同組合代表理事組合長)
事務局		市役所企画部企画課

●表浜自然ふれあいガーデン 実現に向けてのこれまでの動き

海と森と農村における「自然と人」「人と人」のふれあいの庭(ガーデン)をイメージし、その実現のために、海・砂浜・崖・森・農地の保全と利用を図ると同時に、新たにレクリエーション・保養・学習などふれあい機能の導入を図るものです。

ハード事業

◆海岸整備(県事業)

◇海岸保全事業(傾斜護岸)：百々海岸(H19)、離岸堤調査・工事(豊橋田原海岸) ◇海岸治山事業：9箇所要望中

◆拠点地区の整備促進(市事業)

- ◇公衆便所整備事業：谷ノ口海岸(H9)・大草海岸(H10)・百々海岸(H11)・東ヶ谷海岸(H13)
- ◇海岸駐車場事業：大草海岸(H11)・百々海岸(H12)
- ◇道路整備事業：南谷ノ口1号線改良(H15)・寺前上り口線拡張(H16～H18)・高畑谷ノ口線改良(H17)・谷ノ口海岸線拡張(H17～)・R42公民館前交差点改良(H18～)
- ◇公園整備事業：表浜ほうべの森整備(H18～)
- ◇観光地維持管理事業：浜田海岸レンタルトイレ1基設置(6月～12月)(H30)

ソフト事業

◆表浜自然ふれあいフェスティバル(協議会事業)

◇メイン海岸：谷ノ口(H10・25・26・28・29)、東ヶ谷(H13・19・22)、百々(H12・15・18・21・24)、大草(H11・14・17・20・23・27) ※H16は分散開催

◆表浜のレクリエーション

- ◇健康ウォーキング大会(市教育委員会)：H10東ヶ谷・H11大草・H14谷ノ口・H15百々・H17百々
- ◇ふれあいウォーキング大会(六連青少年健全育成)：H13六連海岸

多額の予算を必要とする海岸保全事業の継続的な実施には、国土保全・防災面に加え、表浜海岸の持つ多面的価値の創造を行い、投資効果の向上を図る必要があります。

●農地エリアの整備 実現に向けてのこれまでの動き

ハード事業

◆農村・農地の整備(市事業)

- ◇農村振興総合整備事業：神戸地区(H12～H16)・大草、高松地区(H18～)・田原東部地区(H19～)
- ◇農用地基盤整備事業：谷熊新田排水対策(H20～H26)
- ◇農地・水・環境保全向上対策(H19～H25) ◇多面的機能支払事業(H26～)

ソフト事業

◆農地基盤に関する実態調査(市事業)

◇農地基盤再整備に関する調査：H11表浜全域

道路・排水・農地区画・ため池などの農業基盤に加え、集落環境を含め総合的な整備促進を図ります。

「表浜自然ふれあいフェスティバルに参加して」

田原市立東部中学校 森 洸貴くん 高橋 敬子さん

1.表浜海岸への想い

洸貴くん ● 小さい頃はよく、釣りが大好きなお父さんに表浜へ連れて行ってもらっていました。いつもきれいで、多くの人に親しみをもってもらえるような海岸になってほしいです。

敬子さん ● 他所に自慢できる海岸にしたい!そのために、みんなで協力して海岸清掃に取り組んで、自然を守っていききたいです。



生徒会に所属し頑張る2人にお話を聞きました!
(左:森くん 右:高橋さん)

2.フェスティバルでの「東中ソーラン」の感想

洸貴くん ● 東中ソーランは東部中学校の伝統で、先輩たちから受け継いでいるものです。これまで全力で取り組んでくれた先輩たちと東中ソーランを誇りに思いながら、今年は自分たちが頑張ります!

敬子さん ● 横から見ていましたが、みんなとても楽しそうに踊っていて、こっちまで楽しい気分になりました。今年はぜひ、生徒会を中心にみんなで頑張りたいです!

3.これからフェスティバルがこんなイベントになるといいな!

洸貴くん ● 今よりも多くの人が集まって、もっと楽しめるイベントになってほしいです。そして、フェスティバルを通して人との絆がさらに深くなるといいなと思います。

敬子さん ● 海岸清掃や地引網、表浜ほうべの森で自然とふれあったり、スポーツレクリエーションや東中ソーランでお祭りのように盛り上がったりと、どんな人でも楽しめるイベントになるといいです。楽しんでもらうことで、良い思い出になって、また参加してみたいなと思ってくれるかもしれないからです。

平成30年度事業計画

■ 主要事業

第21回表浜自然ふれあいフェスティバル

日時 ● 平成30年12月1日(土) 午前9時～午後0時30分
※悪天候の場合は、平成30年12月2日(日)に延期

場所 ● 久美原～大草の表浜一帯
※親睦会場は表浜ほうべの森(田原市谷ノ口公園)

内容 ● 海岸清掃、地引網、津波避難訓練、ペタンク、東中ソーラン、じゃんけん大会、魚さばき体験、豚汁や石窯ピザなどの無料提供ほか

目的 ● 表浜海岸の魅力、海岸侵食などの現状を広くPRすることで海岸整備の促進を図る

※フェスティバルの内容は、変更になる場合があります。

■ 主な推進事業

農村総合整備事業:田原市産業振興部農政課
[大草・高松地区、田原東部地区]

多面的機能支払事業:田原市産業振興部農政課
[六連・神戸・大草・田原東部各校区]

海岸治山事業:愛知県東三河農林水産事務所

海岸保全対策:愛知県東三河建設事務所

森林公園整備[谷ノ口地区]:田原市都市整備部街づくり推進課

第20回 表浜自然ふれあいフェスティバル

昨年開催

H29
12.2
開催



第20回目の開催となった表浜自然ふれあいフェスティバル。久美原海岸～大草海岸までの一帯で海岸清掃を行い、メイン会場の谷ノ口海岸では、地引網と津波避難訓練を実施しました。地引網ではこの時期の旬であるマイワシやコノシロが大量に網にかかり、参加者から歓声が上がっていました。

親睦会場となった表浜ほうべの森では、地元の農産物を使った石窯ピザやカレーライスなどが振る舞われたほか、新たに企画した東部中学校による「東中ソーラン」や全員参加の「じゃんけん大会」が行われ、おいしく盛り上がりました。

★表浜地域づくり情報誌「潮騒」や「協議会活動」に対するご意見・ご要望・ご感想をお寄せください。

【発行】田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会(事務局:田原市役所企画部企画課) 〒441-3492 愛知県田原市田原町南番場30-1 TEL0531-23-3507

この冊子は再生紙を使用しています。